

## 三溪園に杉田梅を移植

### — 江戸時代の名梅が再び園内に —

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、このたび杉田梅の苗木5本を新たに移植しました。この梅は、江戸時代から名所として知られた磯子の杉田梅林由来のもので、三溪園には明治41（1908）年にこの杉田梅林のほか、小向（川崎）、蒲田（東京）からの木が約1,500本移植されました。しかし、度重なる自然災害や老朽などにより、当時の梅の多くは失われ、杉田梅も三溪園から姿を消していました。このたび、令和7（2025）年1月に杉田梅の苗木5本が寄贈され、江戸時代に人気を博した名梅を再び三溪園で観賞できるようになりました。



#### 杉田梅について

杉田梅は、かつて横浜市磯子区杉田周辺で広く栽培されていた梅の品種です。その歴史は天正年間（1573~1592）に遡り、杉田の領主・間宮信繁が温暖な土地に適した梅を植え、梅林を築いたことが始まりとされています。この梅は、実を梅干しに加工し、戦陣用の保存食として活用されました。江戸時代には約3万5千本もの梅が杉田の地に植えられ、全国的に評判を呼び、多くの観光客が訪れる梅林として名を馳せました。また、杉田梅は実が大きく品質が良いため、加工品の原料としても重宝されました。しかし、都市化の進展により栽培は縮小し、現在では貴重な品種となっています。

#### 三溪園と梅の歴史

三溪園は、明治から大正時代にかけて、実業家・原三溪によって造られた日本庭園です。日本各地から移築された歴史的建造物が、自然の地形を生かして巧みに配置され、建物と自然が調和する美しい庭園です。三溪は、明治期の廃仏毀釈などにより荒廃の危機にあった古建築を移築し、文化財の保存に貢献しました。梅に関しても、明治天皇も愛でた小向（川崎）の梅林が、収穫量の減少により伐採の危機にあった際、梅の木を三溪園へ移植し、園内の梅林を形成したことが、当時の新聞にも取り上げられています。

また、三溪が篤く支援した日本画家の下村観山は、三溪園の梅をモデルに、屏風の名作「弱法師」（重要文化財・東京国立博物館所蔵）を描いたことは、よく知られています。

## 寄贈者について

今回の杉田梅の移植は、料理研究家であり「横浜旬・菜・果」の代表を務める市原由貴子氏からの寄贈によって実現しました。市原氏は、梅の奥深さや先人の知恵に魅せられ、「杉田梅」を使った料理の紹介・普及活動を通じて、美味しく健康に良い「杉田梅のある暮らし」の提案を行っています。また、梅おばさんとして知られる延楽梅花堂の乗松祥子氏に師事しており、梅に対する深い愛情と知識を生かして、地域社会への貢献を続けています。

## 今後の見どころ

移植された杉田梅は、2025年2月中旬頃に開花する見込みで、2月9日（日）～3月3日（月）に開催される観梅会の催しとともに楽しみいただけます。また、3年後には三溪園梅林の完成120周年を迎えます。訪れる皆様に美しい梅の景観を楽しんでいただけるよう、今後も貴重な梅の育成に取り組んでいきます。

この機会に、ぜひ三溪園へ足をお運びください。

## ◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって創られ、1906(明治39)年5月1日に一般公開されました。約17.5ha(東京ドーム約3.7個分)に及ぶ園内には、廃仏毀釈などによる荒廃から守るため、京都や鎌倉などから移築された歴史的価値の高い建造物が巧みに配置されており、古建築と自然が調和した四季折々の景色が楽しめる日本庭園です。開園当初は「遊覧御随意」を掲げ外苑を24時間無料開放するなど、「美しいものはみんなで一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されています。原三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観、下村観山、前田青邨らを輩出するなど、日本美術への貢献も評価されています。戦災により大きな被害をうけ、1953(昭和28)年に原家から横浜市に譲渡されるのを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、現在に至ります。2007(平成19)年には国の名勝に指定され、現在園内にある17棟の古建築のうち10棟が重要文化財、3棟が横浜市指定有形文化財に指定されています。

## 施設概要

施設名	三溪園（さんけいえん）
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
連絡先	TEL 045-621-0635
公式HP	<a href="https://www.sankeien.or.jp">https://www.sankeien.or.jp</a>
Instagram	<a href="https://www.instagram.com/sankeien_garden">https://www.instagram.com/sankeien_garden</a>
Twitter	<a href="https://twitter.com/HSankeien">https://twitter.com/HSankeien</a>
入園料	大人 900円 / 小中学生 200円 横浜市内在住の65歳以上 700円（公的証明書の提示が必要）
開園時間	9:00～17:00（最終入園 16:30）
アクセス	JR 根岸線根岸駅から市営バスで10分「本牧」下車、徒歩10分 横浜駅東口から市営バスで40分「三溪園入口」下車、徒歩5分



## 本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 事業課 広報担当 永山・向井

TEL : 045-621-0635 / FAX : 045-621-6343

MAIL : [websupport@sankeien.or.jp](mailto:websupport@sankeien.or.jp)